

## 第 32 回 泉南地区合唱フェスティバルを振り返って

平成 29 年 11 月 28 日

男声合唱団阪南メンネルコール 丹羽孝二

私自身は 3 回目の泉南地区合唱フェスティバルの参加でした。

我が団にとっては年間を通じ最も大きな合唱フェスティバルへの参加であり、団員全員気合いを入れての参加であったと思います。

今回、我が団は役割担当団でありましたが、参加団員の数も多くないことから皆さん忙しく割り当てられた役割をこなしていました。

私自身ステージ誘導等の担当となり、その為他の団の合唱を拝聴することは殆どできなかったのですが、裏方を担当することで他の団のそれぞれの性格を垣間見る事もでき、興味深いものでした。

今回の我が団は出演が最後のオオトリであったこともあり、少々待ちくたびれ感もありましたが、全員悔いのない発声できたのではないのでしょうか。

我々の 1 曲目は「里の秋」でした。これはアカペラであったので全員をまとめる唯一の手段は宮本先生の指揮にあります。しかしながら我々は全員楽譜を持っての合唱であり、どうしても先生の指揮に集中できなかったところもあったのか、全体のまとまりが今一つの評価を聴いていただいた知り合いの方から受けました。

やはりアカペラの曲は暗譜で歌い、より指揮者に集中することが全員のまとまりをより強固にすると思いました。

2 曲目は「歌うたいのバラッド」でした。この曲については私自身もそうでしたが皆さん思い切って発声出来たように思えます。

今回も思いましたが、観客の多くは合唱参加者およびその関係者でいわゆる一般客の割合は少ないように見受けられます。これだけの合唱団が一堂に集まり熱唱しているのもっと一般客が多く来ていただければ更に大会は盛り上がると思います。

以上